

シマフクロウの森保全活動評価報告

2009年10月5日

環境プランナー協議会

恒藤克彦

■ 評価の対象と目的

(財)日本野鳥の会が実施した「シマフクロウの森を育てよう！ プロジェクト」による森づくりが、

- ①生物多様性からみた環境負荷の把握がなされる
- ②記録管理（作業日誌等による）がなされる

ことによって、プロジェクト活動地域の履歴が適切に残されていることを評価する。

■ 実施した評価手続きの概要

評価手続きの概要は以下のとおりである。

1. (財)日本野鳥の会発行の「シマフクロウの森を育てよう！ プロジェクト」パンフレットおよびホームページの閲覧
2. 環境負荷の把握のための作業日誌の閲覧
3. 現地実施検分と日本野鳥の会現地管理者へのインタビュー

■ 結論

結論は以下のとおりである。

1. 提供された情報の内容は、認定基準を満たしている。
2. 環境プランニング学会作成「森づくり・里山里林保全アセスメントの手引き」の基準により98点/100点となり、「優良」の評価が得られた。

以上

プロジェクト名 “The forest of the fish owl”プロジェクト

作成者 恒藤克彦

作成日 2009年10月5日

承認者

| | |
|------|----------|
| 評点合計 | 98点/100点 |
|------|----------|

| | | | | | | | | | |
|--|----|----|---|-------|---|--------|-----|----|---------|
| 1. 活動の概要 | | | | 適合項目数 | 4 | 評点の平均値 | 5.0 | 評点 | 20点/20点 |
| 評価項目 | 適否 | 評点 | コメント | | | | | | |
| ① 活動目的 | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 植樹による森林生物の生息環境を整え、そこに住む生物を増やす ・ 植樹により、二酸化炭素を吸収する ・ 絶滅危惧種シマフクロウを救う | | | | | | |
| ② 活動計画 | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年間の管理作業が計画されている ・ 100年後をめざしたイメージが作られている | | | | | | |
| ③ 活動地域 | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡り鳥やタンチョウの生息地である国設鳥獣保護区風蓮湖畔に隣接した日本野鳥の会が所有する野鳥保護区 | | | | | | |
| ④ 実施主体者 | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに多くの実績を残してきた(財)日本野鳥の会 | | | | | | |
| ⑤ | | | | | | | | | |
| 2. 在来種、従来種、原種管理 | | | | 適合項目数 | 3 | 評点の平均値 | 5.0 | 評点 | 20点/20点 |
| 評価項目 | 適否 | 評点 | コメント | | | | | | |
| ① 樹種選定 種類、本数、産地、 種の原産地 | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に繁殖するミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、ケヤマハンノキの4種類 ・ 苗木100本/1区画、約170平方メートル(立ち枯れ等のリスクを考慮した植栽率) | | | | | | |
| ② 樹種の地域植生との 合致性(侵入性外来種、 GMO: 遺伝子組換体) | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 苗木の育成地は近隣の別海地区 ・ 仕入先は別海町森林組合苗畑 | | | | | | |
| ③ 苗木仕入先情報 | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 別海町森林組合 http://hokkaido.lin.gr.jp/sinrin/betukai/betukai.htm | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | |
| 3. 保全活動による環境負荷 | | | | 適合項目数 | 5 | 評点の平均値 | 5.0 | 評点 | 20点/20点 |
| 評価項目 | 適否 | 評点 | コメント | | | | | | |
| ① 苗木の搬入経路 | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 別海町苗畑～槍昔と適切に記録されている | | | | | | |
| ② 苗木搬入におけるエネルギー使用量 | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通1トン車、別海町苗畑～槍昔55.0km(往復)と適切に記録されている | | | | | | |
| ③ 植え付け作業におけるエネルギー使用量 | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通1.68トン車、別海町苗畑～槍昔82.50km(2日)と適切に記録されている | | | | | | |
| ④ 付帯作業における資材使用量 | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 単管(3m) 8.2kg/本×28本 230kg、鹿柵ネット150m 257kgと適切に記録されている | | | | | | |
| ⑤ 付帯作業におけるエネルギー使用量 | 適 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通1.68トン車、別海町苗畑～槍昔27.5km、トラック2トン車140km(2日)、トラック4トン車140km(2日)、刈払機2台2時間30分使用、と適切に記録されている | | | | | | |

| 4. 付随的に発生する環境負荷の処置 | | | | 適合項目数 | 2 | 評点の平均値 | 5.0 | 評点 | 20 点/20点 |
|--------------------|----|----|---|-------|---|--------|-----|----|----------|
| 評価項目 | 適否 | 評点 | コメント | | | | | | |
| ① 廃棄物発生量 | 適 | 5 | ・ 苗木シート8枚と適切に記録されている | | | | | | |
| ② 廃棄物処理 | 適 | 5 | ・ 苗木シートは、森林組合で再利用、地ごしらえに刈ったクマザサは、そのまま地面に放置するため廃棄物の発生はない | | | | | | |
| ③ | | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | |
| ⑤ | | | | | | | | | |

| 5. 森、里山里林の健全度 | | | | 適合項目数 | 4 | 評点の平均値 | 4.5 | 評点 | 18 点/20点 |
|-----------------------------|----|----|--|-------|---|--------|-----|----|----------|
| 評価項目 | 適否 | 評点 | コメント | | | | | | |
| ① 日が差し込む明るい森 | 適 | 5 | ・ 西側が道路に面しており、天空は明るく開いている | | | | | | |
| ② 植物の種類が多く、よく繁殖している | 否 | | ・ まだ、森になっていないので評価は否とする | | | | | | |
| ③ 鳥の種類が多く、さえずりがよく聞こえる | 否 | | ・ まだ、森になっていないので評価は否とする | | | | | | |
| ④ 落ち葉が堆積し、土壌がスポンジ状でふわふわしている | 適 | 5 | ・ 地ごしらえで刈られたクマザサが小さく砕かれていることもあって、10cm以上の土壌がある | | | | | | |
| ⑤ 土壌に棲む生き物が多い | 適 | 5 | ・ 豊かな土壌で、土壌生物も多く生息している | | | | | | |
| ⑥ 美しく、気分が休まる | 否 | | ・ まだ、森になっていないので評価は否とする | | | | | | |
| ⑦ 一本一本の木が元気で、炭素の吸収が盛ん | 適 | 3 | ・ ヤチダモ、ハルニレ、ケヤマハンノキの活着はよいが、ミズナラは7割ぐらいに立ち枯れや先端部の枯れが見られる。来年の春に再評価する必要がある | | | | | | |
| ⑧ | | | | | | | | | |

評価コメント

- ・ 植樹にあたっての作業内容が、「植樹における環境負荷の把握」シートに詳細に記録されている。
- ・ 植樹場所は、道路際で大変陽射しのよい場所である。
- ・ 地ごしらえのとき、元々あった木はそのまま残されている。
- ・ 地面のクマザサは刈られたあとそのまま放置して土壌し、廃棄物の発生がない。
- ・ 植樹された苗の活着は、ミズナラにおいて木立の先端部に枯れが発生しているものがある。来年春に再度確認して枯れているようであれば、再植樹が必要と思われる。
- ・ 植樹後の作業はこれまで10回程度行われ、状況写真が残されているが作業日誌を記述することを推奨する。担当者が変更になったときもそのまま管理を円滑に引き継ぐときに有効と思われる。

シマフクロウの森現地視察

2009年9月30日

1) 植樹地 シカよけのネットが張り巡らされている



2) ミズナラ

元気なミズナラ



先端部が枯れかかっているミズナラ



3) ヤチダモ



4) ハルニレ



5) ケヤマハンノキ



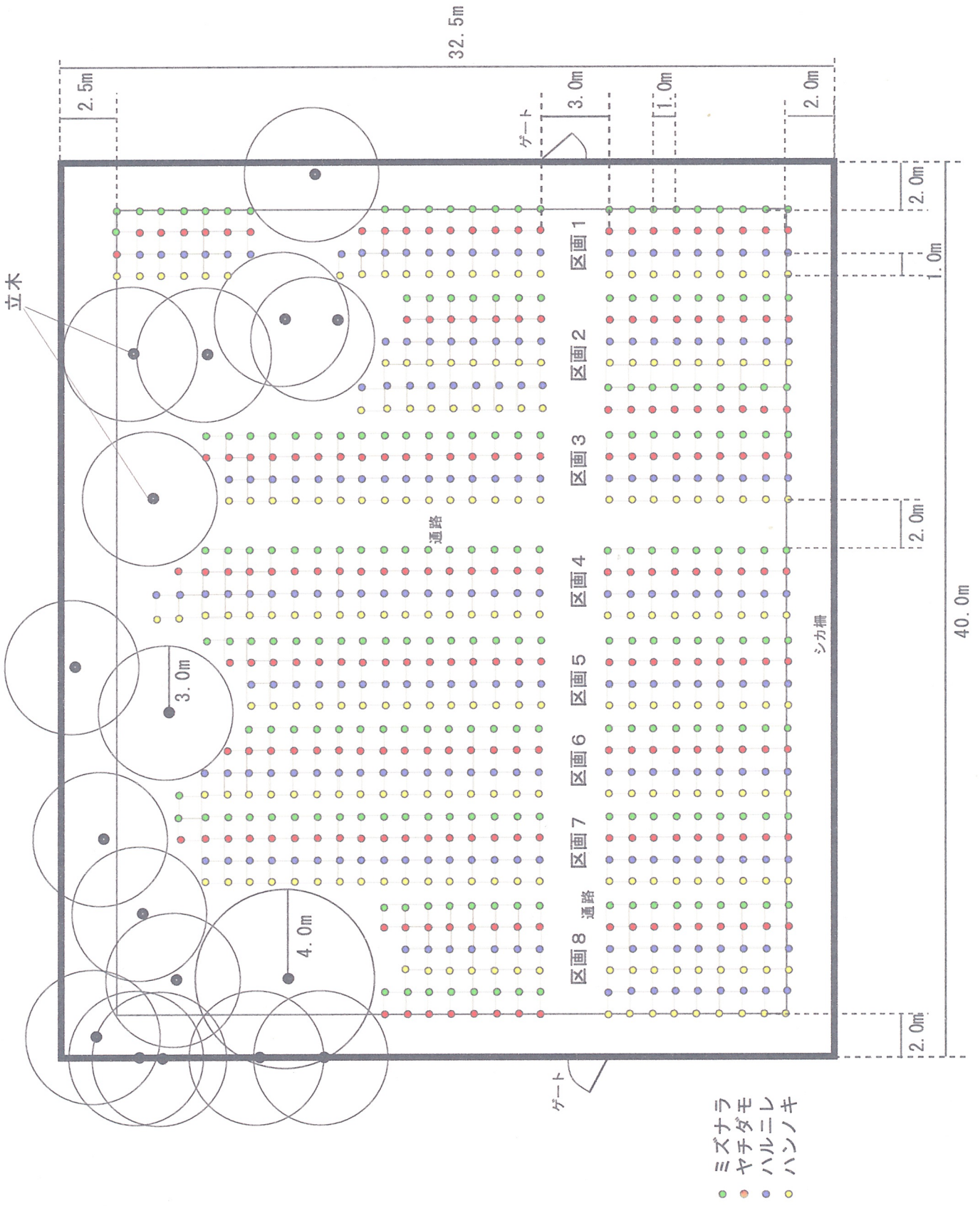
6) 地ごしらえの時、元々あった樹木はそのまま残されている



7) 調査チームメンバー



道路



- ミズナラ
- ヤチダモ
- ハルニレ
- ハンノキ

シマフクローの森を育てよう！ プロジェクト

植樹における環境負荷の把握

1. 苗木の入手

対象地区 根室市檜昔

| | | | |
|---------------|---------------|----------|-------------------------|
| 記入年月日 | 21 年 7 月 13 日 | 記入者 | 別海町森林組合 事業管理課 渡辺幸信 |
| ①苗木の樹種 | | | |
| 樹種名 | ミズナラ | 200 本 | 産地(育成地)別海 仕入先別海町森林組合苗畑 |
| 樹種名 | ハルニレ | 200 本 | 産地(育成地)別海 仕入先別海町森林組合苗畑 |
| 樹種名 | ヤチダモ | 200 本 | 産地(育成地)別海 仕入先別海町森林組合苗畑 |
| 樹種名 | ケヤマハンキ | 200 本 | 産地(育成地)別海 仕入先別海町森林組合苗畑 |
| ②使用した車、機器類、資材 | | | |
| | 普通 | 1.00 トン車 | 走行距離 55.0 km (別海町苗畑～檜昔) |
| | | トン車 | 走行距離 km |
| 機器類 | | | |
| なし | | | |
| 資材 | 苗木シート8枚 | 0.2 kg | kg |
| | | kg | kg |
| その他 | | | |
| なし | | | |
| ③発生した廃棄物 | | | |
| | 苗木シート8枚 | 0.2 kg | kg |
| | | kg | kg |
| ④廃棄物の処理方法 | | | |
| 森林組合で再利用 | | | |
| ⑤その他記載事項 | | | |
| なし | | | |

2.植 樹 (1日目)

対 象 地 区 根室市槍昔

| | | | |
|---------------|----------------------------|----------|---|
| 記入 年月日 | 21 年 7 月 13 日 | 記入者 | 別海町森林組合 事業管理課 渡辺幸信 |
| ①植樹日 | 平成21年6月30日 | 天候 | 雨 |
| | | 気温 | 13℃ |
| ②作業時間 | 午前 10 時 30 分 ~ 午後 4 時 30 分 | | |
| ③作業人数(延べ人数) | 2.0 人日 | | |
| ④作業内容 | 植 付 午前10時00分~午後4時30分 | | |
| ⑤使用した車、機器類、資材 | _____ | | |
| | 普通 | 1.68 トン車 | 走行距離 27.5 km (別海~槍昔片道) ※往路分は付帯作業(時ごしらえ)に記入 |
| 機器類 | _____ | | |
| | なし | | |
| 資材 | なし | _____ kg | _____ kg |
| | | _____ kg | _____ kg |
| その他 | なし | | |
| ⑥発生した廃棄物 | _____ | | |
| | なし | _____ kg | _____ kg |
| | | _____ kg | _____ kg |
| ⑦廃棄物の処理方法 | _____ | | |
| | なし | | |
| ⑧その他記載事項 | _____ | | |
| | なし | | |

2.植 樹 (2日目)

対 象 地 区 根室市槍昔

| | | | |
|---------------|------------------------------------|-----|-----------------------|
| 記入 年月日 | 21 年 7 月 13 日 | 記入者 | 別海町森林組合 事業管理課 渡辺幸信 |
| ①植樹日 | 平成21年7月1日 | 天候 | 雨 |
| | | 気温 | 10℃ |
| ②作業時間 | 午前 7 時 30 分 ~ 午後 12 時 00 分 | | |
| ③作業人数(延べ人数) | 1.0 人日 | | |
| ④作業内容 | 植 付 午前7時30分~午後12時00分 | | |
| ⑤使用した車、機器類、資材 | 普通 1.68 トン車 走行距離 55.0 km (別海~槍昔往復) | | |
| 機器類 | なし | | |
| 資材 | なし | kg | kg |
| | | kg | kg |
| その他 | なし | | |
| ⑥発生した廃棄物 | なし | kg | kg |
| | | kg | kg |
| ⑦廃棄物の処理方法 | なし | | |
| ⑧その他記載事項 | なし | | |

3.付帯作業①

対象地区 根室市檜昔

| | | | |
|---|---------------|-----|-----------------------|
| 記入 年月日 | 21 年 7 月 13 日 | 記入者 | 別海町森林組合 事業管理課 渡辺幸信 |
| ①作業日 平成21年6月30日 天候 雨 気温 13℃ | | | |
| ②作業時間 午前 7 時 30 分 ~ 午後 10 時 00 分 | | | |
| ③作業人数(延べ人数) 1.0 人日 | | | |
| ④作業内容 地ごしらえ 午前7時30分～午前10時00分 | | | |
| ⑤使用した車、機器類、資材 | | | |
| 普通 1.68 トン車 走行距離 27.5 km (別海～檜昔片道) ※復路分は植樹(1日目)に記入 | | | |
| 機器類 | | | |
| 刈払機 2 台 (午前7時30分～午前10時00分使用) (使用燃料 混合) | | | |
| 資材 なし kg kg | | | |
| kg kg | | | |
| その他 なし | | | |
| ⑥発生した廃棄物 | | | |
| なし kg kg | | | |
| kg kg | | | |
| ⑦廃棄物の処理方法 | | | |
| なし | | | |
| ⑧その他記載事項 | | | |
| なし | | | |

3.付帯作業②（防鹿柵設置）

対象地区 根室市檜昔

| | | | |
|---------------|--------------------|--------|-------------------|
| 記入年月日 | 21年 7月 1日 | 記入者 | 第一建設株式会社 高橋 明雄 |
| ①作業日 | 21年 6月 19日 | 天候 | 曇 気温 12℃ |
| ②作業時間 | 8時 ~ 12時 | | |
| ③作業人数(延べ人数) | 2.0 人日 | | |
| ④作業内容 | 防鹿柵の設置(1日目) | | |
| ⑤使用した車、機器類、資材 | | | |
| | トラック 2 トン車 | 走行距離 | 70 km (資材・作業員運搬) |
| | トラック 4 トン車 | 走行距離 | 70 km (バックホー運搬) |
| 機器類 | バックホー 3時間(支柱打ち込み) | | |
| 資材 | 単管(3m) 8.2kg/本×28本 | 230 kg | kg |
| | | kg | kg |
| その他 | なし | | |
| ⑥発生した廃棄物 | | | |
| | なし | kg | kg |
| | | kg | kg |
| ⑦廃棄物の処理方法 | なし | | |
| ⑧その他記載事項 | なし | | |

3.付帯作業②（防鹿柵設置）

対象地区 根室市檜昔

| | | | |
|---------------|-------------------|--------|-------------------|
| 記入年月日 | 21年 7月 1日 | 記入者 | 第一建設株式会社 高橋 明雄 |
| ①作業日 | 21年 6月 20日 | 天候 | 曇 |
| | | 気温 | 12℃ |
| ②作業時間 | 8時 ~ | | 16時 |
| ③作業人数(延べ人数) | 4.0人日 | | |
| ④作業内容 | 防鹿柵の設置(2日目) | | |
| ⑤使用した車、機器類、資材 | | | |
| | トラック 2 トン車 | 走行距離 | 70 km (人員運搬) |
| | トラック 4 トン車 | 走行距離 | 70 km (バックホー運搬) |
| 機器類 | バックホー 6時間(支柱打ち込み) | | |
| 資材 | 鹿柵ネット 150m | 257 kg | kg |
| | | kg | kg |
| その他 | なし | | |
| ⑥発生した廃棄物 | | | |
| | なし | kg | kg |
| | | kg | kg |
| ⑦廃棄物の処理方法 | なし | | |
| ⑧その他記載事項 | なし | | |

日本野鳥の会が、生物多様性保全と希少種保護、地球温暖化対策の3つを同時に国内で実現する「The forest of the fish owl シマフクロウの森を育てよう！」プロジェクトに着手しました。

2009年5月27日

■ プロジェクト名

The forest of the fish owl シマフクロウの森を育てよう！

■ プロジェクトの目的

絶滅危惧 IA 類のシマフクロウ [学名: *Ketupa blakistoni*] は、北海道および北方領土などに生息しています。近年、森林伐採による営巣木の減少等により著しく個体数を減らしており、国内では北海道東部に約 130 羽が生息するだけとなっています。

当プロジェクトは、シマフクロウの生息地である北海道東部で日本野鳥の会が所有する野鳥保護区に原生的自然環境を復元することにより、生物多様性と植樹による森林炭素吸収量【カーボンオフセット】を実現する森林再生・保全型の事業です。

このプロジェクトにより、「生物多様性保全」+「種の保護」+「炭素吸収量」のトリプル・ベネフィットが日本国内で実現できます。



シマフクロウ
(撮影:山本純郎)

■ プロジェクトの実施主体

【主催】

財団法人日本野鳥の会 (会長:柳生博 <http://www.wbsj.org>)

【後援】

環境プランニング学会 (会長:山本良一(東京大学教授) <http://www.kankyo-planning.org/>)

【プランニング・支援】

太豊商事株式会社 (代表取締役:太田豊彦 <http://www.taiho.ne.jp>)

■ プロジェクトの概要

【事業用地】

北海道根室市の「日本野鳥の会 渡邊野鳥保護区ソウサンベツ」(わたなべやちょうほごく)で実施します。

ここは、法的指定がなされていない湿原と山林を渡邊玲子氏からのご寄付を元に 2002 年に日本野鳥の会が買い取った場所です。面積は 368ha で日本野鳥の会の野鳥保護区としては最大、国内の民間設置保護区としても最大級です。タンチョウ 1 つがいが繁殖、隣接地では 2 つがいが繁殖し、自然採食地としても利用され



渡邊野鳥保護区ソウサンベツ
(面積 368ha 北海道根室市)

ていますが、シマフクロウは生息していません。

【事業内容】

この「渡邊野鳥保護区ソウサンベツ」の中で保護区化前に伐採され、そのままササ原などになってしまっている 1,375m²に、ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ等の広葉樹の3～5年生幼樹を面積 1,000m²あたり約 500本の植栽率で植樹を行います。

植樹後の5年間は、ササに覆われたりシカに食べられないようになどの管理作業を行います。そしてその後は、日本野鳥の会が存続し非常に大きな方針の転換がない限り、その森を維持管理し続けることとなります。

【事業効果】

○生物多様性保全と希少種保護

植樹後約10年で小鳥のアオジが巣をかけるようになります。50年後にはシジュウカラが巣をかけ、ネズミヤリスなども生息するようになります。エゾフクロウが狩り場として使うようになります。100年後には50cm位の太さに木が育ち、シマフクロウが生息するようになります。

○炭素吸収（貯蔵量）

ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ等の天然林広葉樹では、一般的に年間約5t/haのCO₂を吸収します。当事業地の1,375m²では、60年生の広葉樹で、約36t-CO₂の炭素吸収（固定）が見込まれます。

【今後の展開】

今年、秋以降は事業用地を増やし、植樹だけでなく除間伐なども加えたプロジェクト展開を計画しています。

■ 協賛募集

【募集内容】

- ・このプロジェクトに協賛していただける企業、団体、個人を募集しています。
- ・協賛金額は、事業用地の1,375m²を8区画に分け、1区画（約170m²）あたり40万円です。
- ・1区画あたり、ミズナラ、ハルニレ等を100本植樹します。

【協賛特典】

- ・植樹証明書を発行します。
- ・協賛いただくと、企業のCSR報告書等に当プロジェクトの効果を記載できます。
- ・1区画あたりの炭素吸収（固定）量は、約4.5t(t-CO₂)/170m²です。
- ・炭素吸収量を、カーボンオフセットの仕組み（吸収量としてみなすこと）として活用できます。

■ 詳細

添付の資料をご覧ください。

■ お問い合わせ

財団法人 日本野鳥の会

西五反田事務所

〒141-0031 東京都品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

TEL 03-5436-2632 FAX 03-5436-2635 E-mail: media@wbsj.org 担当: 小林

野鳥保護区事業所

〒086-0074 北海道根室市東梅103 春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター内

TEL 0153-25-8911 FAX0153-25-8570 E-mail: hogoku@wbsj.org 担当: 富岡

シマフクロウの**森**を

The **forest** of the fish owl

育てよう! プロジェクト

～ 生物多様性を向上するための取り組みです～

このプロジェクトは、
企業のCSR活動をサポートします。



北海道根室市の別当賀川河口に広がる野鳥保護区 (57ha)



(財)日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

植樹で「生物多様性向上」と「種の保護」、そして「炭素吸収」

シマフクロウは世界最大のフクロウ類で、日本では北海道の森に生息しています。しかし、シマフクロウが安心して暮らせる森はとて少なくなっており、いまでは北海道東部に130羽程度が生息するだけになりました。

このプロジェクトでは、植樹をすることによりシマフクロウが暮らせる森を育て、生物多様性を向上させ絶滅危惧種の保護を行ないます。

これにより、樹木の炭素吸収によるカーボンオフセット効果も生まれ、3つの効果が同時に実現できる当会独自のプログラムです。

◆当会ならではのトリプル効果

①生物多様性

植樹により、森林生物の生息環境が整い、そこにすむ生物たちがふえていきます。

国内で3つの効果を同時に実現できることが、当会のプログラムの特色です。

②炭素吸収量

植樹により当然、カーボンオフセット(CO2炭素吸収)の効果があります。

③種の保全

当会が保全をめざしている絶滅危惧種シマフクロウを救えます

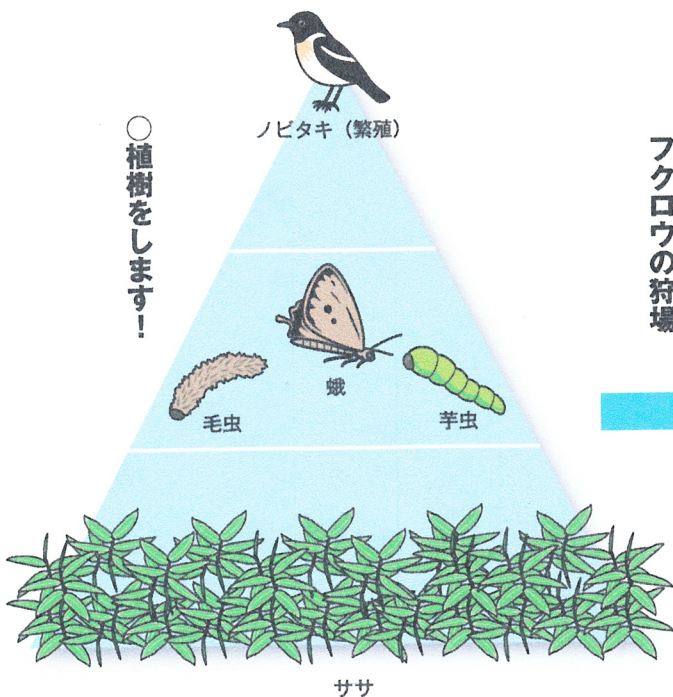
森を育てることで、生物多様性がこのように向上します

現状「ササ原・牧草地」

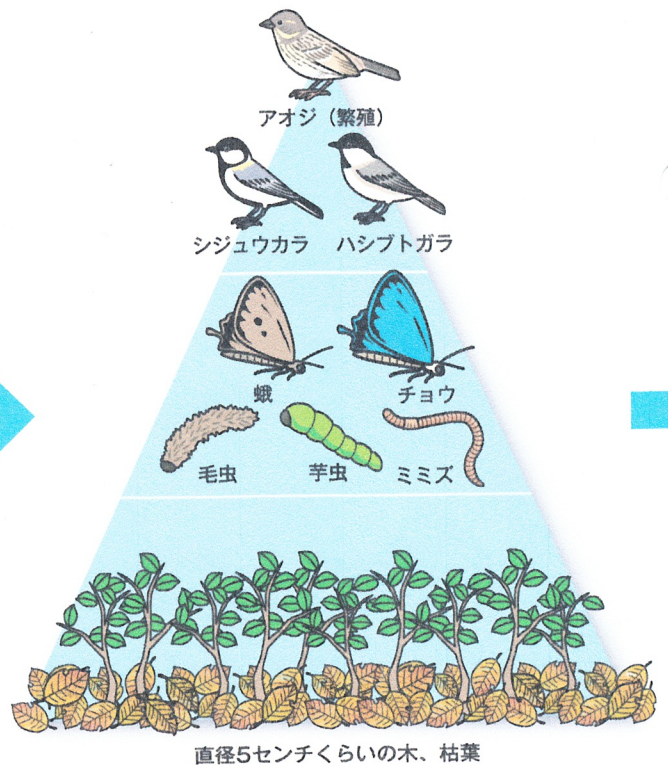
伐採後にササ原になっていたり、牧草地だったため外来種の植物が繁茂していたりする場所があります。こうなってしまうと、なかなか樹木は生えてきませんし、昆虫類もそれをエサにする小鳥もほとんどいません。

10年後

植樹した木が育ち、その木の葉をエサにする昆虫がやってきます。枯れ葉の下に虫たちも増え、小鳥たちのエサ場になります。小鳥のアオジが、枝に小さな巣をかけるようになります。



○除間伐、^(※1)巣箱の設置、^(※2)フクロウの狩場^(※3)



(※1) 木を早く大きくするための除間伐を行ないます。

(※2) 木に自然に洞ができるまでは、時間がかかるので、フクロウ類、エゾモモンガやコウモリ類、小鳥用の巣箱を設置します。

(※3) 除間伐した木を集めて、ネズミのすみかを作ります。

事業地は日本野鳥の会が所有する「野鳥保護区」

当会では、北海道東部のシマフクロウやタンチョウが生息する地域を中心に、土地を購入するなどして野鳥保護区を設置しています。

しかし保護区の中にも、30～40年前に伐採され裸地になっているところやササ地になっているところがあります。こうした伐採跡地などに植樹をして森林を復元することで、生物多様性を向上させます。

事業用地はすべて野鳥保護区内ですから、地域に常駐する当会職員が定期的に巡視するなど、植樹後も当会が責任をもってその土地の維持管理にあたります。

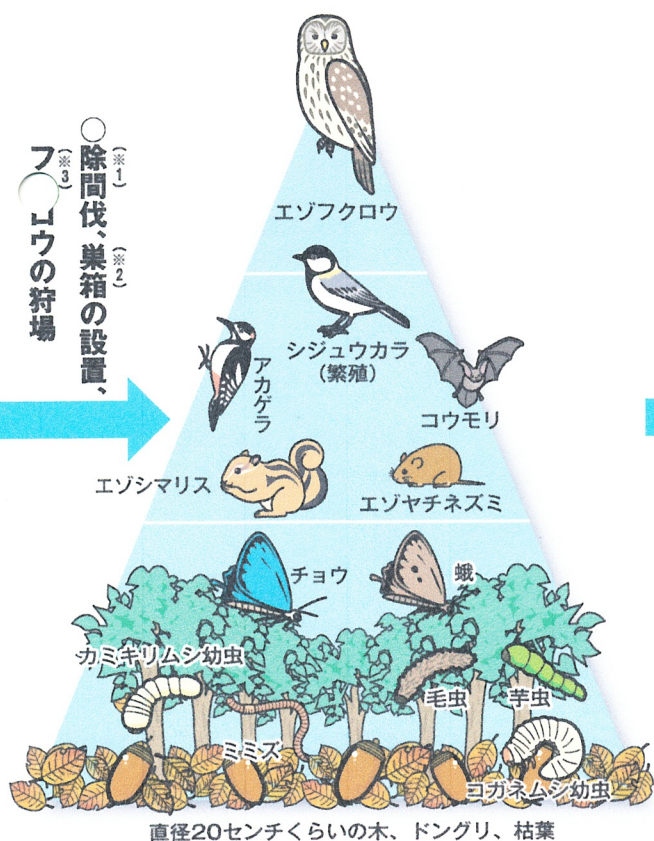


シマフクロウ／アイヌ語で「コタンクルカムイ(村を守る神)」
絶滅の恐れのある日本最大のフクロウ。日本とロシアの一部にのみ生息し、日本では北海道に約130羽の生息が確認されているのみ。

…「生物多様性保全」=多様な生命の尊重を尊重し、それを持続・保全する社会や生活の実現をめざそうという思想(広辞苑より)

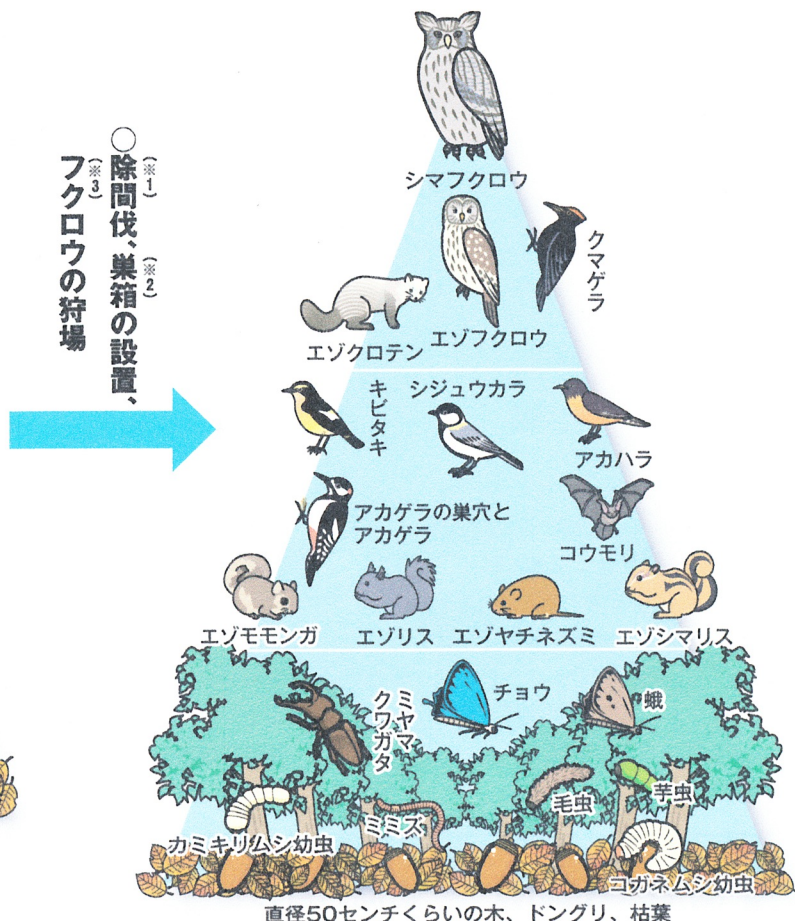
50年後

樹木の幹も直径20cm～30cmの太さになり、幹の中にはカミキリムシの幼虫、落ち葉の下にはコガネムシの幼虫が増えます。巣箱の設置で、シジュウカラなど小鳥たちの繁殖地になります。ネズミやリスたちも生活しています。



100年後

キツツキが木をつついて巣穴をつくります。やがてキツツキの古巣は、モモンガやゴジュウカラが利用します。豊かになった森は、シマフクロウやテンのすみかになります。



民間保護区を設置する意義

シマフクロウやタンチョウを守るために最も重要なのは、彼らがエサをとる場所や子育てする場所を確保することです。

国や北海道によって法的に守られていない地域は、農地化や森林伐採などによる環境悪化のリスクがあります。また民有地の利用を法的に規制するためには、所有者の理解やささまざまな手続きも必要で、簡単なことではありません。

このため日本野鳥の会では、1987年から買い取りなどにより「野鳥保護区」を設置し、その規模を拡大しています。



生物がすみつかない、荒れ果てた現状

持続的な管理で維持される豊かな森林

保護区の設定はゴールではなく、スタートです。

保護区の設定後は、繁殖期に野鳥に悪影響を与える釣り人や山菜採りの人などが入りこんでいないか、盗伐や不法投棄がないかなどの巡回監視をしています。

保護対象の希少種が順調に繁殖しているかどうかの調査や、その他の野鳥の生息状況を調べるモニタリング調査なども実施しています。

また、シマフクロウが暮らせるように植樹や除間伐といった森林の管理なども行なっています。これらの活動は、募金やボランティアのご支援やご協力によって、なっています。



除間伐は森を育てるうえで大切な工程



刺鉄線で人の立ち入りを制限



馬が食べてくれることで、自然な草原環境を維持



未来を担う、地元の子どもたちが植樹に参加

おもな野鳥保護区

| | | |
|-------------------------|------------------------|--------------------|
| ▶ 渡邊野鳥保護区ヤウシュベツ | 北海道別海町 (2008年設置 352ha) | タンチョウ2つがい営巣 |
| ▶ 明治乳業野鳥保護区牧の内 | 北海道根室市 (2007年設置 236ha) | タンチョウ2つがい営巣 |
| ▶ 渡邊野鳥保護区ソウサンベツ | 北海道根室市 (2002年設置 368ha) | タンチョウ2つがい営巣 |
| ▶ 三菱UFJ信託銀行野鳥保護区酪陽 | 北海道根室市 (2008年設置 35ha) | タンチョウ1つがい営巣 |
| ▶ 持田野鳥保護区シマフクロウ根室第1 | 北海道根室市 (2004年設置 13ha) | シマフクロウ1つがい営巣 |
| ▶ 早瀬野鳥保護区別寒辺牛湿原 | 北海道厚岸町 (1994年設置 285ha) | タンチョウ3つがい営巣 |
| ▶ 持田野鳥保護区シマフクロウ日高第1 | 北海道日高地方 (2007年設置 66ha) | シマフクロウ1つがい営巣 |
| ▶ エクソンモービル野鳥保護区イーハトーブ盛岡 | 岩手県盛岡市 (1996年設置 8ha) | イヌワシの生息地 |
| ▶ やんばる奥間野鳥保護区 | 沖縄県国頭村 (1992年設置 3ha) | ノグチゲラの生息地 など、全28か所 |